

シリーズ

編集部座談会 こんな話&あんな話

大学や専門学校への直接的なコンタクトで関係を構築するには!? 眼目は「遣り甲斐」「生き甲斐」「遣り甲斐のある仕事」の創出だ!!②

【出席者=本紙編集部一同】

☆最近目立つ独立系業界企業への大学側の興味

司会者 今年の就活戦線も昨年に続き、新型コロナ禍が収束しないままで迎えた訳だけど、前回はどうした状況下における、中堅以下の独立系業界企業はどう動いて、新たな人材を確保すべきかというようなことを話し合ったね。

その後、今年の就活戦線について、何か新たな動きは聞こえてきている?

記者B 今のところ、新型コロナ下だからどうこうという混乱は聞こえていないですね。就活生も企業側も、昨年1年間でだいぶ慣れたのかもしれません。

記者A それもあるかもしれないけど、大学生の就活が解禁になったばかりだからね。まだ、いろいろな意味で序の口だから、波乱もまだ出ていないということなのでは(笑)。

記者C それはどちらも言えそうだね。だけど本紙編集部には、これまでにない学校側とのパイプができつつあるような気がします。先日もある工科大学の就職担当の先生から連絡をいただいたばかりですし。

司会者 そうそう。新型コロナ禍が始まってからは、「週刊電業特報別冊・就活特集号」を置いてもらっている大学・専門学校・職業訓練校と本紙のやりとりが全体に活発化してきた感じがある。だけど、とくに大学側が中堅以下の独立系業界企業の情報を以前にも増して求めている。そんな傾向があるね。

記者D それはどういう背景からでしょうかね。内定率についての動きが、去年はそれまでに比べると全体に鈍いという傾向があったので、そのあたりを少しでも改善させる手はないか。

就職担当の先生方はそういう感じで、情報収集の幅を広げようとしているのでしょうか。

記者B それもあるだろうね。だけど、本紙編集部に

大学から直接連絡が来る頻度が高まってきたのは、まず第一に「週刊電業特報別冊・就活特集号」を足掛け7年にわたって、毎年発行してきたという事実が取り持つ縁、ということがあるのでは?

司会者 うんうん、それはあるよな。内定率がなかなか上がらない苦しさを昨年経験した先生方のなかには、大手企業がダメなら中堅以下というようなヒエラルキーが、以前より弱くなりつつある傾向もみえるよね。

いざとなったら中堅以下の企業に送り込めばいいというようなことではなく、大手企業も中堅以下の企業も幅広く知って、そのなかで改めて、自分に向けた会社選びをすることが重要だという意識が出つつあるのかもしれない。

大手企業を第一志望にするという傾向は相変わらず支配的だけど、大手なら何でもいいというような会社選びは止めようよという雰囲気が、先生方の間に芽生えつつあるのは確かじゃないか?

記者A それは学校を取材していると、昨年からはしばしば感じてきたところですよ。今年はそうした傾向が本格化しつつあるという感じがします。

記者B そうだね。新型コロナ禍は、いいとこなんか何もないけど(笑)、大人も若者も、固定観念は捨てようという感じが生じつつあるのではないのでしょうか。それが就職先選びにも出てきつつあるという……。

記者C それはあるよね。その傾向が特に大学に色濃いというのも面白い。

司会者 専門学校や職業訓練校の学生は、最初から業界企業への就職を目指している傾向が強いから、学生にもあまり迷いが無いけど、大学生は必ずしも大学で専攻した分野の仕事に就くとは限らない傾向が強いからね。

*本文、後略